

滋賀の地、近江の国、森と湖の郷、のどかな田畑が広がる地です。公共の施設も充実していて、ほとんどの市町村には立派なテニスコートがあります。仲間さえ見つければ、いつでも安く、テニスを楽しむことができます。探せば、無料の施設もあつたりして、

大津では京都からも訪れる程です。

安くて借りたい時に自由に借りられる。もし、いっぱいであっても他の場所が簡単にみつかります。

ですから民間のクラブの営業は育ちにくい環境です。私はここでテニスを楽しみながら、もっとテニスの奥深さを知って欲しい！と願うようになりました。

それにはまず、多くの人と交流してもらおうこと。教えることも大事だけれど、学ぶことも大事。

スポーツだからルールも大事だけれど、相手を思いやる心で交流のほうを大切にしたい。

これは大変でした。能勢杯はルールを少しくらい守らなくても棄権にはならない。と解釈する傾向が一時でたりして！

それでもルールは最低限にして、お互いが一番いい方法を探り合って欲しい。と願いました。

団体戦の場合、お互い話し合いで決めます。私が基本としたのはお互いの家同志が訪問し合う関係でした。招待した家（自分達の練習コート）の人は家賃などお客様に要求したりしません。でも訪問する人は花とかお菓子など手土産は持っていきます。その手土産がボール（一部ですが）と考えたのです。お客様ですから、訪問側の方が負担を少なくなるように設定しました。ボールとコート代、必ず必要な経費は半々に、という意見もありましたが、なんでも相手に要求するのではなく、工夫次第で節約できる素地も残したかったのです。

安いコートを借りられる人たちは有利ですし、訪問する人も車を乗り合わせて節約することもできます。

個人戦も少しづつ増やそうと考えました。直接、会えることで私の思いを伝えることができる。

今、思えば楽しいことばかりです。困ったと思うことも確かにありました。でもそれがあつたから、いろいろな工夫、改善ができたと思います。皆さん、どのような試合、出会いが記憶に残っていますか？簡単にできたものほど、覚えていないのではないですか？

悩んで悩んで苦しんで苦しんで出た結果は喜びが ついてきます。

私の場合、体の具合が悪くなるほど、回りの人たちは変わってきました。

テニスが出来なくなってテニスのできたのです。

私と出会った方は、最初、驚かれます。次にあきれます。その次に全ての方が、自分にできることは何かないかと探し始めるのです。それはすぐの人もいますし、一週間後、一年後、十年後のひともいます。

私の体は魔法の杖！

歩けなくなったり、動けなくなるたび、誰かが動いてくれます。

魔法はいつ消えるのだろう？

わがまましたら消えるかな？

失敗したら消えるかな？

気にしないことにしました。私は何もしてないのだから！

テニスの奥深さを知って欲しいと願い、滋賀地区から始まり、近隣の他府県にまで進んで来ました。

目の前のボールにだけ集中しているときの気持ちは最高ですね。それからボールをどこに打とう、どう打とう、スピードは？高さは？集中の課題に困ることはありません。これで終わりが無いのが奥が深いことですね。



燦々カップ

4月17日(金)	県営彦根	9:30開始
4月24日(金)	野洲河川	10:30開始
5月19日(火)	〃	〃

(雨天中止)

申込みは能勢まで

www.sunsun-tennis.life-on.jp